

# 2019 BRP SEA-DOO NEW MODEL FISH PRO 155 IMPRESSION



2019年のSEA-DOOニューモデルに業界初となるスポーツフィッシング専用モデルが加わった。今回ご紹介する「FISH PRO 155」はGARMIN社製の魚探や大型クーラーボックスなどが標準装備となっており、高いフィッシング機能が特徴となるモデルだ。今回はそんな最新モデルに乗って、沖縄の海で「FISH PRO 155」のインプレッションを行った。釣りに出る前に、実際にマシンを見てみると、船体の長さと活用できそうなスペースの広さに驚く。全長は373.4cmあり、後部のリアプラットフォームは30cmも延長されているため、全体的に船体に余裕が生まれている。ベンチシートは長さも十分で、撮影時には大人2人が横並びで釣りをすることことができた。また、ストレージ容量に関して



**SEA-DOO FISH PRO 155**  
メーカー希望小売価格 ¥1,948,000 (税込)  
●全長×全幅 3734×1255mm  
●乾燥重量 389kg ●定員 3名  
●燃料タンク容量 70L ●ストレージ容量 153.5L  
●最大出力 155hp ●総排気量 1494cc  
●エンジン Rotax 1503 NA  
●燃料 無鉛レギュラーガソリン





取材協力:BRPジャパン株式会社 東京都港区港南2-16-1 品川イーストタワー21F URL: <https://www.brp.com/jp/>  
オートヒラカワ 沖縄県うるま市糸野比770番地 TEL:098-972-6131 URL: <http://www.auto-hirakawa.okinawa>  
ホテルムーンビーチ:沖縄県国頭郡恩納村字前兼久1203 TEL:098-965-1020 URL: <http://www.moonbeach.co.jp>

も、153.5Lあるため、釣りに行く際も十分な荷物を収納することができる。フロントのストレージは座った状態で簡単に荷物を出し入れできる設計になっており、スマートフォンを保護してくれる防水型のスマートフォンボックスも用意されている。ここでは別売りのUSBポートを付けることで充電も可能となっている。そして、右舷側にはチャーピンナーを採用したGARMIN社製の魚探を搭載しており、詳細かつクリアな海中情報をライダーに表示してくれる。また、撮影艇のようにオプションでスピーカーを搭載すれば、Bluetoothで好みの曲をかけながら釣りを楽しめるのだ。後方のリアデッキにはロッドホルダー付きのクーラーボックスがあり、LinQアタッチメントがマシンとクーラーボックスをしっかりと固定してくれるので、走行中も安心である。こちら

は釣りをしない日には大型のストレージとしても活用できそうだ。リアデッキは標準のクーラーボックスを置いてもまだ余裕があり、後方にはもう1セットLinQアタッチメントが付いているので、ここにランチ用の小さめのクーラーボックスや携行缶などのLinQアクセサリーを追加で設置しても面白いだろう。燃料タンクは70Lと十分な容量だが、携行缶を搭載することで、より広範囲での釣りも楽しめそうだ。爽快な乗り味が楽しめるPWCだからこそ、燃料の心配をすることなく釣りや走行を楽しんで欲しいと思う。それがPWCフィッシングの醍醐味でもあるのだ。今シーズンは待望のフィッシングモデル誕生によって、市場が大きく活性化されそうだ。「FISH PRO 155」がこの夏どんな活躍を見てくれるのか、今からとても楽しみである。



フロントストレージはドリンクや用具箱をシートに座りながら取り出せる。完全防水型のスマートフォンボックスは別売りのUSBポートを付ければ充電も可能だ。



ハンドルの左手側で様々なモード切替を行える。IBRも付いているので、走行時の安心感も非常に高い。右側ではアクセルやディスプレイの操作を行える。



デジタルディスプレイは7.6インチ。魚探はGARMIN社の製品を採用している。スピーカー(OP)も付いており、Bluetoothでスマホとの連動も可能だ。



長いベンチシートでは2人横並びで釣りができる。エンジンはRotax 1503 NAを搭載。フットレストは傾斜付きなので、横向きに座っても体を固定しやすい。



標準装備のLinQフィッシング用クーラーボックスは51Lの大容量で、両側にロッドホルダーも付いている。クーラーBOXや携行缶を追加で搭載しても面白い。



後方のデッキを30cm延長したことでの釣りのスペースは広くなり、荒天時の安定性もアップしている。スponsonを装備しており、マシンの安定性も抜群だ。

